

| 埼玉県 川越市 | | |
|------------------------|---|--|
| 【 川越市資源化センター及びなぐわし公園 】 | | |
| No. | 先進地ヒアリングに係る質問 | 回答 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 処理方法と最終処分は ・ 焼却施設隣接住民の理解度は ・ 資源化センターからの施設建設，稼働によるアドバイスは | <ul style="list-style-type: none"> ・ 処理方式：流動床式ガス化溶融方式 （ストックヤード、リサイクル施設、草木類資源化施設、環境プラザ（つばさ館）を併設しています。） <p>スラグ：市内の公共事業（舗装工事）、セメント原材料として活用、一部を川越市一般廃棄物最終処分場の覆土として使用しています。</p> <p>飛 灰：薬剤処理後、民間最終処分場で埋立処分しています。施設竣工後、山元還元処理を行っていましたが、東日本大震災の放射能の影響により中止しています。</p> <p>金 属：ガス化炉より排出される鉄、アルミについては有価にて売却しています。</p> <p>不適物：民間処理業者にてリサイクル処理を行っています。一部は、市所有の最終処分場へ埋め立てています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用地選定及び施設建設当時は、一部の市民の方から建設に対する不安や反対の声がありましたが、住民説明会等を通じ施設建設への理解を求めました。施設建設時においては工事協定、稼働後は公害防止協定を地元自治会と締結しました。また、地元議員、地元住民の代表者及び地元の学校関係者で構成される「資源化センター生活環境保全協議会」を年2回開催し、資源化センターの稼働状況を報告しています。現在は、良好な関係を築けていると感じています。 |

| 埼玉県 川越市 | | |
|------------------------|---|--|
| 【 川越市資源化センター及びなぐわし公園 】 | | |
| No. | 先進地ヒアリングに係る質問 | 回答 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 施設の特徴として、ダイオキシン類が大きな問題となった時期に排ガス規制値の検討が行われた経緯があり、排ガスに関する自主規制値がかなり低く定められています。規制値を低くすることは、施設周辺の環境を守るため重要なことではありますが、排出ガスの処理に必要な機器の設置費用及び毎年要する維持管理費用が増加しますので、関係者で十分な議論が必要であると考えます。 また、なぐわし公園 PiKOA は、多くの皆様に御利用いただき、おかげさまで来場者数目標を大きく上回る利用者数で運営しています。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> SDGs への取り組み方と視野にいれているアクションナンバーを参考までに知りたい。 サプライチェーン CO2 排出（スコープ3）に対する計画はあるか。 カーボンニュートラルへ向けての CO2 「吸収」の部分の検討案、対策はあるか。 | <ul style="list-style-type: none"> 総合計画に「SDGs の推進について」を掲げ、「各施策の着実な推進と多様な主体との連携により、SDGs の達成に向けて取り組んでいきます」としております。 川越市一般廃棄物処理基本計画においては、12.5 が挙げられ、「ごみ年間排出量」、「1人1日当たりのごみ排出量」、「資源回収を除く家庭系1人1日当たりの排出量」、「リサイクル率」、「最終処分量」を目標値として設定しています。また、本計画は現在改定作業中ですが、改定後の計画には、12.3 に関連して「食品ロスの削減」を、14.1 に関連して「プラスチックごみの削減等」を重点的に取り組む施策として取り上げる予定となっています。 |

| 埼玉県 川越市 | | |
|------------------------|---------------|---|
| 【 川越市資源化センター及びなぐわし公園 】 | | |
| No. | 先進地ヒアリングに係る質問 | 回答 |
| | | <p>施設の整備及び維持管理については、6. 3の有害な化学物・物質の放出の最小化として、焼却施設に水処理プラントを整備しています。また、7. 2として廃棄物焼却の際に発生する熱を利用したバイオマス発電を行い、施設屋上等に太陽光発電設備を設置していることが該当していると考えられます。</p> <p>ご承知のとおり、SDGsの17の目標は相互に関連しており、今後も市全体として取り組んでいく所存です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サプライチェーンCO2排出（スコープ3）に対する計画はありません。 ・ CO2の「吸収」・「回収」に関する対策等につきましては、ごみ処理施設等での取組はございませんが、「保存樹林・樹木」、「市民の森」等の各種指定制度により市域の緑地の保全、苗木配布、緑のカーテン、寄附植樹等による緑化を推進してまいりました。 <p>また、CO2削減の取組といたしましては、公共施設における再生可能エネルギー設備の導入（R3現在、太陽光：88施設、地中熱利用1施設）、土地貸し事業による大規模太陽光発電設備の誘致、ごみ処理発電・熱利用によるエネルギーの有効活用、市民への再生可能エネルギー機器等普及促進事業補助金の交付、事業者に対する環境経営の促進などの取組を行っております。</p> |

| 埼玉県 川越市 | | |
|----------------------|---|--|
| 【川越市資源化センター及びなぐわし公園】 | | |
| No. | 先進地ヒアリングに係る質問 | 回答 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 当地区の開発区域には、雫石川が隣接しております。当地区と非常によく似ており、開発に際して隣接する小畔川を意識して、開発に望んだ点は何かありましたらお教え下さい。 ・ 現在既に事業が開始して10年程経過しているようですが、設備の利用状況はいかがですか、人気のある施設とか、何か別の施設があった方が良かったとかありましたらお聞かせください。 ・ 現在の事業経過は経営面的には、いかがでしょうか。利用状況は月何名程度の来場がありますか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 建設地については、東武東上線霞ヶ関駅の北北東約1.8kmの小畔川の右岸に発達した水田地帯の一面に位置しており、過去に洪水や湛水が発生している地形です。昭和56年に小畔川の堤防改修が完了した後は堤防決壊は生じておらず、昭和57年9月の湛水状況が過去最大であったことを踏まえ、用地の造成及び雨水調整池を整備しています。敷地造成は、現況地盤高さから約2m程度の土盛りを行っており、雨水調整池は過去最大の湛水状況及び施設建設による開発増量分を合わせて整備しています。 併せて、近年の集中豪雨による内水氾濫対策として、排水機場を整備しています。 ・ なぐわし公園 PiKOAについては、事業者の当初想定（225,000人/年）に比べ、コロナ前は約2倍の利用者数となっていました。（表1をご参照下さい。）主要施設の温水プール、トレーニング室、スタジオは、どれも人気がありますが、温浴施設は特に人気があります。（表1をご参照下さい。） ・ 屋内スポーツ系の施設は揃っていますので、特段、他の施設の必要性は感じていません。 ・ 指定管理者の収支報告書によると、開館時から現在まで、収入（サービス購入料+利用料金）から支出（維持管理業務費+運営業務費+光熱水費）差し引いた収支はプラスになっており、経営は安 |

| 埼玉県 川越市 | | |
|----------------------|---|---|
| 【川越市資源化センター及びなぐわし公園】 | | |
| No. | 先進地ヒアリングに係る質問 | 回答 |
| | | 定していると考えています。利用状況は、2～4万人/月となっています。（表1をご参照下さい。） |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 可燃ごみの処理方式及び処理方式の選定理由についてお尋ねします。 資源化センターの稼働状況について、センターへのごみ搬入量は、稼働開始時と比較し変化はありますか。変化がある場合、何が主な要因でしょうか。 なぐわし公園整備のコンセプトについてお尋ねします。 なぐわし公園の管理・運営状況について、年間利用状況は、どのように推移していますか。また、運営状況は、基本計画どおりに推移していますか。 | <ul style="list-style-type: none"> 可燃ごみの処理方式及び処理方式は選定せず、国内メーカ全ての処理方式を対象として公募により見積設計図書を徴収し、その上で、川越市が要求する技術レベルを満足しているかどうかの技術審査を行い、合格した処理方式で競争入札を行っています。事前に処理方式を限定しないことで、処理方式選定に係る疑念を払拭でき、参加者が多くなり競争性も担保できると考えたためです。ただし、この方法ですと資料作成などの事務が膨大となり、職員への負担が非常に大きくなることから人員の確保が必須であると考えます。 資源化センターへの可燃ごみの搬入量は、平成22年度約71,877トン、令和2年度70,363トンと約1,514トン減少しています。一方、市全体の可燃ごみの総排出量は、平成22年度約90,387トン、令和2年度90,392トンと約5トン増加しており、資源化センターへの可燃ごみの搬入量の減少理由は、別の清掃工場（川越市東清掃センター）との搬入量調整によるものです。 <p>なお、川越市の人口（基準日：10月1日）は、平成22年342,318人、令和2年353,238人で、10,920人増加しています。また、可燃ごみの1人1日当たりの排出量は、平成2</p> |

| 埼玉県 川越市 | | |
|------------------------|--|---|
| 【 川越市資源化センター及びなぐわし公園 】 | | |
| No. | 先進地ヒアリングに係る質問 | 回答 |
| | | <p>2年度約685g/人日、令和2年度約665g/人日と約20g/人日と減少しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぐわし公園整備のコンセプトは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ○子供から高齢者まで誰もが一日楽しく安心して運動、遊びができる ○余熱利用施設の導入 ○災害時の近隣住民の緊急的避難地、物資の収集備蓄場所等、地域の防災拠点 ○地元住民による地域交流の場 ○自然と触れ合える場 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響のなかった平成30年度までは、順調に利用者数は増加していましたが、令和元年度からは感染症の影響で利用者は減少しています。（表1をご参照下さい。） <p>※令和2年3月～制限営業（休館、時短）の開始</p> <p>コロナ禍の現在においても、利用者数は当初想定（225,000人/年）を上回っています。（表1をご参照下さい。）</p> |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 建設前、建設後の近隣住民の反応を知りたい。 ・ 豊富な種類の施設があるが、稼働率はどうか知りたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 用地選定及び施設建設当時は、一部の市民の方から建設に対する不安や反対の声がありましたが、住民説明会等を通じ施設建設への理解を求めました。施設建設時においては工事協定、稼働後は公害防止協定を地元自治会と締結しました。また、地元議員、地元住民 |

| 埼玉県 川越市 | | |
|------------------------|---------------|---|
| 【 川越市資源化センター及びなぐわし公園 】 | | |
| No. | 先進地ヒアリングに係る質問 | 回答 |
| | | <p>の代表者及び地元の学校関係者で構成される「資源化センター生活環境保全協議会」を年2回開催し、資源化センターの稼働状況を報告しています。現在は、良好な関係を築けていると感じています。</p> <ul style="list-style-type: none">令和2年度の各施設の稼働率（計画処理量比）については、焼却施設で約95%、リサイクル施設（合算）で約86%、草木類資源化施設で約38%となっています。草木類資源化施設については東日本大震災後、放射能の関係で一時的に土壤改良材の配布を中止していましたが、現在は再開しています。 |